

### 第3回 地域公共交通の活性化及び再生の将来像を考える懇談会

平成28年8月30日

#### <全但バス株式会社>

- 神鍋線での社会実験の効果について、輸送人員と運送収入の推移からは読み取れない。どう解釈したらいいか。
- 会社全体としての長期にわたる輸送人員と運送収入の減少傾向が、近年は下げ止まっており、神鍋線での健闘が寄与していると考えられる。
  
- 上限運賃の導入に際し、200円という料金はこういった根拠で決めたのか。
- 他地域の事例も参考にしたが、最終的には住民との協議における感触で決めた。
  
- ビアガーデン開催による利用客開拓について、今後の拡大は想定できるのか。
- 会場のキャパシティを考えると拡大は見込みづらいが、(実質的に)回送で走っている便なので、認知度向上も兼ねた有効活用と捉えている。
  
- 外国人向け案内所を兼ねた待合所の例もあったが、今後の取組としてはどういったものを考えているか。
- 具体的には検討中だが、国の補助メニューを活用しながら上手く対応していきたいと考えている。
  
- インバウンドの増加に向け、どういった対応をしているのか。
- バス待合所及びインフォメーションで採用した外国人スタッフに、実際にバスを利用してもらい、不便な点の指摘を受け、随時改善している。日本人旅行者にとっての利便性向上にも寄与。
  
- インバウンド対応について、地元はどう受け止めているのか。
- きっかけは全但バスの取組だったが、現在では地元が利便性向上に向けた提案や活動を積極的に行っており、利用促進のための検討会が毎月開催されている。一方で、利用実績には一服感もみられるため、地元の熱意を維持するためにも、今後の更なる取

組が必要。

#### <三条市>

- デマンド交通の利用料金の値上げにより、利用者層や行き先に変化はあったか。高齢者には低収入の方が多いであろうし、影響が大きかったのではないか。
- 元々高齢者の利用が多かったため、利用を減らした層として高齢者が多いのは事実。特に近距離の利用料金の値上げ率を高くしたため、近距離移動の利用者が減少。一方で、市として「スマートウェルネスシティ」施策※を推進しており、近距離の利用者が、少しの距離なら、ということで徒歩や自転車に転換していただいたものとプラスに考えている。

※スマートウェルネスシティ：

自律的に「歩く」を基本とする『健幸』なまちのこと。

住民の行動変容を促し、高齢化・人口減少が進んでも持続可能な先進予防型社会を創り、高齢化・人口減少社会の進展による地域活力の沈下を防ぎ、もって、地域活性化に貢献することを目標としている。

- 「おでかけパス」の取組では、利用者に関するデータの採集や有効活用は行われているか。
- 9月に利用者に対するアンケートによる悉皆調査を行う予定。併せて、警察と連携し、「おでかけパスが免許返納の動機付けになったのか」などの項目についてアンケート調査を免許返納者に行う予定。こうした調査を踏まえ、おでかけパスの全市展開を検討する。
- 値上げ前の利用者は、デマンド交通を安価なタクシーとして捉えているような印象があった。結果として利用が増えるほど市の補助額が増えていたと認識しているが、値上げした後の状況はどうか。
- 料金の見直しにより、本当にデマンド交通を必要としている層の定着に繋がったと考えている。現行制度では「利用が増えれば市の補助額が減る」状況にはないため、今後は「おでかけパス」の検証結果を踏まえ、複数乗車率を更に向上させることで持続可能な公共交通体系の構築を図りたい。

- 三条市は積極的に他地域の事例を採り入れているとのことだが、そのためには、まず市内の実情をしっかりと把握した上で、数多ある他地域の事例から課題に対応する事例を選ぶ必要がある。対応に苦慮している他の地方公共団体へのアドバイスをいただきたい。
- 三条市では、「まずやってみる。何もしなければ始まらない。失敗したらそのとき考える。」という「トライ&エラー」の気持ちで、市長以下担当職員が動いている。何もしていないよりも、まず何でも取り入れてやってみる姿勢が重要。その際には、例えばバス事業者の事務担当者の意見よりも、現場を熟知している運転手の意見を積極的に聞くことも有効だ。

<SBドライブ株式会社>

- 自動走行の導入がしやすい路線と、住民が自動運転を必要としている路線は異なると考えるが、どのように認識しているか。
- ご指摘の通り。そのため、2018年までは、まず、走行が容易なルートで成功事例を蓄積していく。その上で2019年以降は、住民の声やデータ等を踏まえ、本当にニーズのある路線での導入に取り組んでいく予定。
  
- どのような車両がいつ動くのか等、もっと具体的なロードマップを教えてほしい。
- 私たちは、先進的な外観にこだわりはない。例えば「外観は今のバスのままで、自動運転機能が付加されている」という形でもありかと考えている。資料以上の具体的なロードマップについては、できる限り早くご紹介できるようにしたい。